

おわりに

「発達支持的」取り組みが学校教育相談の本分であり、それを充実させたい。「課題予防的」対応は学校における支援の中心であり、児童・生徒面談や保護者面談などを有意義に進めたい。「困難課題対応的」支援では、保健室や相談室での対話、事例検討会などを通して、子どもの希望と未来をつくる実践をしたい。

このような学校現場の方々の願いは、私たちの願いでもあり、そこから**35種類ものワークシート**が生まれました。

近年、学校現場では、子どものよいところを見つけたりほめたりすることは、積極的に取り組まれているように思います。リソースや例外探し、コンプリメントといった解決志向の技法が馴染みやすいものになってきたと言えるかもしれません。もちろん、これらはとても重要なことですし、本書でもこれらの技法に焦点を当てたワークシートをたくさん紹介しています。

一方で、そこからさらに**一歩踏み込んだ対話や取り組みの必要性**も強く感じます。それは、先生やスクールカウンセラーなどの支援者が一方的に子どもたちのよいところをほめるというのではなく、**子どもたちが自分のもっているよさ（強み）や力を自分で発見できるかわり**です。そのためには、子どもたちに、「自分（たち）がどうなりたいのか」「一歩進んだら何が違うのか」「そこに向けて自分（たち）のどんな力を使い、何をすることが役立つのか」を質問し、共に考えていくことです。

本書のワークシートは、そのヒントや指針を具体的に示すものです。ワークシートを使うことで、解決志向の「質問」や取り組みを手軽に無理なく楽しんで実践してもらえることを、なにより願っています。

また、子どもの強みや望みに光をあてたワークシートがそのまま支援の記録となって、関係者間で容易に共有できることも、実は大きなメリットです。とにもかくにも、「いいな」と感じたワークシートを、ぜひ使ってみてください！

最後に、ほんの森出版の小林敏史さん、金原優さんに、深く感謝いたします。教育相談にかかわるすべての先生方やスクールカウンセラーに届くようにと、ワクワクする想いを共有しながら、本書の編集を進めていただきました。

また、本書のワークシートのインキュベーター（孵卵器）となっているのはKIDSカウンセリング・システムです。そこで共に研鑽に励む全国の先生やスクールカウンセラーの方々、そして、私たちが出会ってきた多くの学校現場の皆さまにも、この場を借りて感謝を申し上げます。本書のワークシートが、より一層、学校現場のニーズに応えるものとなるよう、読者の皆さまと共に育てていけることを願っています。

2025年4月

著者 黒沢幸子・渡辺友香